

神戸輝夫の 二豊漢学講座

2024年度(第八期)

【第四回】 日時：10月17日(木) 13:00～14:30 (12:30開場)
場所：J:COMホルトホール大分 大会議室

「福岡藩儒学者亀井南冥・昭陽父子と二豊の漢学者
(その二 帆足万里、毛利空桑等)」

帆足万里(1778～1852)は24歳のとき南冥に会っている。南冥死後は昭陽との交流があり、昭陽は自著『蒙史』の校訂を依頼している。鶴崎の人毛利空桑(1797～1884)は万里に学んだ後、昭陽の亀井塾に学び幾つかのエピソードを遺している。

【第五回】 日時：11月7日(木) 13:00～14:30 (12:30開場)
場所：J:COMホルトホール大分 大会議室

「『追思録』に見る廣瀬旭荘の人物像」

「追思録」は亡き妻松子への想いを記した文章である。旭荘は、1843年(天保14)、37才の時に江戸に出た。翌年2月、郷里日田から妻松子を江戸に呼び寄せた。しかし松子は同年12月に病没した。傷心の想いを綴った「追思録」を通じて旭荘の人となりを見てみたい。

お申込み

事前のお申込みは不要です。当日会場にてご住所等をご記入いただく場合がございます。

講師

かんべ てるお
神戸 輝夫

元APU孔子学院学院長、
前APU教授、
大分大学名誉教授



お問合せ

立命館アジア太平洋大学 孔子学院事務局

(対応可能時間：平日9:00～17:30)

電話：0977-78-1188

メール：confuapu@apu.ac.jp

ホームページ：http://apu-confucius.com/